

## 令和7年度 2月定例会会議録

- ◎招集年月日 令和7年2月20日(木)
- ◎開催日時 令和7年2月25日(火) 午後1時30分～午後3時05分
- ◎場所 伊那市役所 庁議室
- ◎出席委員 福與教育長、北原教育長職務代理者、田畑教育委員、黒河内教育委員、宮坂教育委員
- ◎欠席委員 なし
- ◎出席職員 三澤教育次長、北林子ども相談室長、矢澤生涯学習課長、酒井指導主事、橋爪主査

### 1 開 会

### 2 あいさつ 教育長

- ・教員になってから3学期になると先輩たちから「1月は行く、2月逃げる、3月は去る。」と言われてきた。実感を伴いながら年を重ねるごとにこの勢いが速くなると思いつつ、今週末いよいよ3月に入っていくところに来た。
- ・それぞれの学校では、登校日数をあと2週間ほど残すところになっていると思うが、最後のまとめ、子どもたちもこの年を締めくくり、次へ向かう準備を、そして先生方はまとめて、新たな年度を始めるための準備をしてくれていることだろうと思っている。
- ・卒業式に向けていろいろお世話になるがよろしくお願いいしたい。

### 3 委員のひと言 宮坂委員「ジェンダーギャップ」

### 4 会議事項

#### 第1 教育長報告

- ・2月1日には伊那小学校の公開学習研究発表会があった。全国から700人以上の方、中には外国から来られた方もいて、自由参観、共同参観をご覧になり、伊那小の学びを求めて来られる先生方は今も多いと思った。
- ・自由参観では、5年生の算数で「単位あたりの大きさ」の授業があり、会場のプレイルームには大勢の皆さんが入られ、教科学習と伊那小の総合学習はどうリンクするのか、一番見たい、教えて欲しいというところがあると感じた。
- ・2月6日には伊澤修二記念音楽祭の最後の実行委員会があり、今まで合唱団を牽引いただいた田中先生がご勇退されるということだった。来年からは、教育委員会に文化部分が戻ってくる。来年は第39回、そして第40回に向けて、教育委員会が主導して進めていくことになる。どんな形で次へ繋げていけるのか、第40回を踏まえながら、市民の皆さんにさらに愛していただける文化的行事にしていきたい。
- ・2月6日には春の高校伊那駅伝の幹事会があった。今年は長野県の佐久長聖と長野東が全国大会で優勝しているので、一緒に走りたいという思いでたくさんの高校生たちが参加してくると思うので、迎える準備をしていきたい。
- ・2月12日には地域おこし協力隊18名の活動報告会があった。頭が下がるような取り組みをしていただいております、教育現場、学校と繋がると面白い、また、地域に密着した学習もできるかもしれないと感じた。
- ・2月16日には伊那市消防音楽隊定期演奏会があり、伊那中、東部中、春富中、高遠中の吹奏楽部も一緒に演奏してくれた。3時間という長い時間だったが、短い時間に感じられ、最後に全員が集まって一つの曲をやるとというのは素晴らしく圧巻だった。
- ・部活動の地域移行地域展開について、それぞれの中学校の1、2年生だけでは大編成できる人数ではない。この子たちがどういう部活をできるのか、吹奏楽を楽しむことができるような場

を用意することが一番良いのだろうと思った。

- ・地域で結成された伊那ジュニアアンサンブルクラブがあるが、実際には合同練習ができなかった。これから地域移行を考えた時に、どんな形をとっていけるのか、進めていかなければいけないと思った。
- ・2月17日には人権同和教育学社合同研修会があり、講演会では在住外国人の理解と支援についてということで齋藤先生から講演いただいた。伊那市は県内で5番目に外国人の住民が多く、人口比率は2.87%で県内では一番高く、国籍も以前と異なり多様化しており、それぞれの母国語に対応しようとする大変難しいことから、やさしい日本語を使って会話することが大事という話をお聞きした。
- ・例えば「修学旅行のお金は、後日精算した後に、各家庭に返します。」というお便りは、わかりやすい日本語で「修学旅行が終わって、お金が余ったら返します。」のような言葉を使えば、伝わるということだった。
- ・学力向上検討委員では、伊那市の課題をそれぞれの学校へどう繋げていくか、各学校の課題を各学校が解決していくことに取り組んできた1年間で、感謝申し上げた。以上、報告とさせていただきます。

## 第2 議案

### 議案第1号 伊那市公民館条例施行規則の一部を改正する規則

- ・生涯学習課長から資料に基づき説明  
(質問・意見なし)
- ・可決された。

## 第3 報告事項

### (1) 令和7年度教育委員会関係予算の概要について

- ・教育次長から資料に基づき説明
- ・教育委員から「屋根のない博物館は具体的にどんなものか。」との質問があり、教育次長から「今年度から平賀さんをコーディネーターにお願いしている事業である。市長は特定の場所だけではなく、市内どこに行っても学びの場があるという構想を掲げており、今年度から推進している。」旨の回答があった。
- ・教育長職務代理者から「各学校の研修に充てる費用はどこで読み取れば良いか。」との質問があり、教育次長から「学校運営の中にそれぞれ盛り込まれている。資料は概要であり、項目として挙がっていない。研修費用は、例えば小学校運営の中に入っている。」旨の回答があった。
- ・教育委員から「市費講師配置とあるが、昨年と比べて増減はどうか。また、県の募集で集まらないので市で集めるということか。教員の不足がこの予算にどのように影響しているか。」との質問があり、教育次長から「手元に数字がないため、次回にお示しさせていただく。市費の教員は県の配置に加えて加配している。県費の教員が足りないから市費で補填するというよりは、市でプラスしているイメージである。」旨の回答があった。
- ・教育長職務代理者から「学校で講師を呼んだり、研修に出たりする費用はどこにあるか。」との質問があり、教育次長から「講師は、創造的活動推進や小学校管理のコミュニティスクール事業の交付金を使うことができる。」旨の回答があった。
- ・教育長から「教員不足に係る予算化は難しいところがあり、これだけの先生を入れて充実させたいというところの予算になっていると思う。3月に説明させていただく。」とのコメントがあった。

### (2) 伊那市図書館条例の一部改正について

- ・生涯学習課長から資料に基づき説明

(質問・意見なし)

(3) 伊那市文化財保護条例の一部改正について

- ・生涯学習課長から資料に基づき説明

(質問・意見なし)

(4) 伊那市いじめ問題対策連絡協議会等条例について

- ・教育次長から資料に基づき説明
- ・教育委員から「基本は対策連絡協議会で対応し、何か重大な事案が生じたら調査対策委員会が招集され、その調査自体がどうかとなった場合に外部委員による再調査を行うという理解で良いか。」との質問があり、教育長から「重大事態は第三者委員会で対応することになっている。その報告に問題があるとなれば、市長の権限で調査委員会を立ち上げ、調査に当たるのが再調査委員会になる。」旨の回答があった。
- ・教育次長から「いじめ問題対策連絡協議会の任務はいじめ防止に係る対策の推進等となる。基本的にいじめの調査などは重大事態に至る前のは学校の中の組織で解決していくが、重大事態にあたる案件は伊那市いじめ問題調査対策委員会が担うことになる。報告に納得がいかず、不十分となれば、再調査委員会が動くことになる。」旨の補足があった。

(5) 人権同和教育事業について

- ・生涯学習課長から資料に基づき説明

(質問・意見なし)

(6) 3月以降の文化施設の行事日程について

- ・生涯学習課長から資料に基づき説明

(質問・意見なし)

(7) 共催・後援について

- ・教育次長から資料に基づき説明

(質問・意見なし)

5 その他

(1) 今後の主な日程について

(2) 来月以降の主な行事予定について

(3) 令和7年度年間諸会議等日程 変更について

- ・三澤教育次長から(1)から(3)まで、資料に基づき説明

6 閉 会